

# 大学生の人間的な成長に関する研究の動向

堀井 俊章

Personal Growth in University Students: An Overview of Research

Toshiaki HORII

## I はじめに

2000年6月、文部省高等教育局の報告書「大学における学生生活の充実方策について（報告）―学生の立場に立った大学づくりを目指して」では、「学生相談は全ての学生を対象として、学生の様々な悩みに応えることにより、その人間的な成長を図るもの」と明記された。また、2007年3月、独立行政法人日本学生支援機構による「大学における学生相談体制の充実方策について―総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」では、我が国の広義の学生相談（学生支援）の使命として、「学生相談（学生支援）は、大学教育の中心的活動の重要な一つであり、個々の学生の大学における人間的成長を支援する」と記述された。さらに、2013年3月、日本学生相談学会による「学生相談機関ガイドライン」では、「学生相談は、高等教育機関の教育的使命の達成にとって必要不可欠な要素である」とし、「高等教育機関は、さまざまな教育機会を提供して、専門性においても、人間性においても学生の成長を促進しようとする」と記述された。

これらの記述からもわかるように、学生相談及び大学教育において、大学生の人間的な成長という概念は今日重要な位置づけを担っている。そして、その背景にはこれまでの数多くの人間的な成長に関する研究の蓄積がある。

本稿は、我が国の大学生の人間的な成長に関する研究の動向を整理した結果をもとに、文献リストを提示することを目的とする。なお、「人間的」という言葉を使わず、単に「成長」と記述している文献、または「心理的成長」「内面的成長」「精神的成長」「人格的成長」「こころの成長」などの類する用語を使っている文献についても、広く人間的な成長に関する文献として扱い、文献リストに含めることとする。また、文献を整理・提示するにあたり、「学生相談理論と成長」「成長論」「成長の基礎研究」「ストレス関連と成長」「心理的援助と成長」「グループ・アプローチと成長」「ピア・サポートと成長」「キャリア関連と成長」「大学教育・大学生活と成長」「教員養成と成長」という10のカテゴリーを設ける。

今後、大学生の人間的な成長に関する研究・教育・支援を志す者、及び学生相談に従事する者にとって、本稿が有益な情報提供となることを目指すものである。

## Ⅱ 文献リスト

### 1. 学生相談理論と成長

大学の専門的學生支援としての學生相談の役割は、「学業・進路・學生生活・性格・対人関係などに関する學生の悩みや困難に対して、カウンセリングを中心とした専門的な適応支援・教育的支援を行い、學生の心理社会的回復・成長・発達を促進することが基盤となる。困難な心理的適応問題や、疾患や障害のある學生を支援する場合も、他の専門的學生支援機関等と連携しながら教育的・成長促進的支援を行うことが重要である」（独立法人日本學生支援機構，2007）と指摘されている。本稿の「はじめに」で引用した文献を見てもわかるように、大学生の成長を促進することは、学生相談の役割でもあり使命でもある。成長促進という考え方は、今日学生相談の基本となっている。

大学生の成長に言及した文献は、上記以外にも数多く見られる。表1として、学生相談の理論について、大学生の成長に言及しながら論じた主な文献を示す。これらの文献には、学生相談の基本的な考え方や、学生相談のモデル・システム・理念などが説明されている。

### 2. 成長論

人間の成長に対する考え方は多様である。大学生の成長に限定したものではないが、Frager & Fadiman（1984 吉福（監訳）1991）は Freud、Jung、Erikson、Adler、Rogers、Maslow、James、Skinner などが提唱した理論を取り上げ、それぞれの理論家による心理的成長の捉え方を解説している。

大学生に対象を限定したとき、大学生を理解する一つの視点としては、「学生生活サイクル」（鶴田，2001）という重要な理論がある。「学生生活サイクル」とは、「大学生の学年ごとの心理的課題を明らかにし、学年があがるにつれてそれらが変化することに注目して、大学生を理解する視点」を表し、「学生生活サイクル」は、大学生が「さまざまな課題に直面し、それらを克服したり、克服しなかったりすることを繰り返しながら成長していく過程」と説明されている。なお、「学生生活サイクル」と呼ばれるのは、「学生期が学年の進行に沿って心理的課題が変化する一つのサイクルを描いている」という着想に端を発している。このような大学生を理解する視点は、大学生の成長論の一つと考えることができる。

表2には、成長論に関する主な文献を示した。これらの文献は、「学生生活サイクル」について論じたものだけでなく、大学生の成長を理解する上で、その基礎となる成長に対する考え方や、人間性心理学の立場から成長について考察したもの、さらには教育学或は医学的な立場から成長論を展開したものなどである。

表1 学生相談理論と成長に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
文部省大学学術局学生課[編]	1953	学生助育総論—大学における新しい学生厚生補導	—	—	—
鳴澤 實 [編著]	1986	学生・生徒相談入門—学校カウンセラーの手引とその実際	川島書店	—	—
全国学生相談研究会議[編]	1991	キャンパス・カウンセリング (現代のエスプリ293号)	至文堂	—	—
下山 晴彦 [他]	1991	学生相談における心理臨床モデルの研究—学生相談の活動分類を媒介として	心理臨床学研究	9(1)	55-69
小谷 英文 [他編]	1994	学生相談—理念・実践・理論化	星和書店	—	—
河合 隼雄 藤原 勝紀 [編]	1998	心理臨床の実際 第3巻 学生相談と心理臨床	金子書房	—	—
齋藤 憲司	1999	学生相談の専門性を定置する視点—理念研究の概観と4つの大学における経験から	学生相談研究	20(1)	1-22
文部省高等教育局	2000	大学における学生生活の充実方策について (報告) —学生の立場に立った大学づくりを目指して	—	—	—
鶴田 和美 [編]	2001	学生のための心理相談—大学カウンセラーからのメッセージ	培風館	—	—
独立行政法人日本学生支援機構 [編]	2004	大学と学生 476号 (平成16年2号) 特集 学生相談50年—今後の指針	第一法規	—	—
齋藤 憲司	2006	学生相談の新しいモデル—変動期における指針	臨床心理学	6(2)	162-167
独立行政法人日本学生支援機構	2007	大学における学生相談体制の充実方策について—「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」	—	—	—
高石 恭子	2009	現代学生のこころの育ちと高等教育に求められるこれからの学生支援	京都大学高等教育研究	15	79-88
田中 宏尚	2009	学生相談学事始め(序) (注: 2011年に(2), 2012年に(3), 2013年に(4)が熊本県立大学文学部紀要に掲載されている)	文彩 (熊本県立大学文学部)	5	45-52
日本学生相談学会50周年記念誌編集委員会[編]	2010	学生相談ハンドブック	学苑社	—	—
下山 晴彦 [他編著]	2011	学生相談・学生支援の新しいかたち 東大理学部発—大学コミュニティで支える学生生活	岩崎学術出版社	—	—
齋藤 憲司	2011	学生相談を通じた総合的な学生支援体制の構築—実践と理念の循環から	大学と学生	564	6-12
田中 宏尚	2012	私と学生相談—学生相談学事始め	学生相談研究	33(2)	180-192
溝上 慎一 及川 恵	2012	学生の学びと成長・支援 (京都大学高等教育研究開発推進センター (編) 『生成する大学教育学』所収)	ナカニシヤ出版	—	119-159
下山 晴彦 [他編]	2012	学生相談必携guidebook—大学と協働して学生を支援する	金剛出版	—	—
日本学生相談学会	2013	学生相談機関ガイドライン	—	—	—
学生文化創造 [編]	2014	学生支援・相談の基礎と実務—学生生活のよりよい支援のために	学生文化創造	—	—
齋藤 憲司	2015	学生相談と連携・協働—教育コミュニティにおける「連携」	学苑社	—	—

注) 上記文献は発行年順に記載されている。他の表と重複する文献も一部含まれている。  
表に記載されていない引用文献は本文の文献欄に記載されている。他の表も同様である。

表2 成長論に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
福井 康之	1980	青年期の不安と成長—自己実現への道	有斐閣	—	—
鳴澤 實 [編著]	1986	学生・生徒相談入門—学校カウンセラーの手引とその実 際	川島書店	—	—
R.フレイジャー J.ファディマン	1989	自己成長の基礎知識1—深層心理学 (吉福 伸逸(監訳)) (注:本書の2と3も公刊されている)	春秋社	—	—
平木 典子	1990	学生相談室で行うカウンセリング (細木 照敏・平木 典 子 (編) 『学生カウンセリング』所収)	同文書院	—	1-29
梶田 叡一	1990	生き方の心理学	有斐閣	—	—
梶田 正巳 [編]	1995	成長への人間のかかわり—心理学・教育学的アプローチ	有斐閣	—	—
鶴田 和美	1998	学生相談 (下山 晴彦 (編) 『教育心理学Ⅱ 発達と臨床 援助の心理学』所収)	東京大学出版会	—	237-257
人間主義心理 学会[編]	1999	人間の本質と自己実現	川島書店	—	—
池田 豊應	2001	人間学的心理学	ナカニシヤ出版	—	—
溝上 慎一 [編]	2001	大学生の自己と生き方—大学生固有の意味世界に迫る大 学生心理学	ナカニシヤ出版	—	—
鶴田 和美	2001	青年期・アイデンティティの危機 (下山 晴彦・丹野 義彦 (編) 『講座臨床心理学5 発達臨床心理学』所収)	東京大学出版会	—	135-150
鶴田 和美 [編]	2001	学生のための心理相談—大学カウンセラーからのメッ セージ	培風館	—	—
鶴田 和美	2003	学生相談における学生生活サイクル研究の位置づけと課 題	名古屋大学学生 相談総合セン ター紀要	3	16-24
小野 良太	2006	自己発見とあなたの挑戦—大学生生活をリッチにする入門 講座	大学教育出版	—	—
鶴田 和美 齋藤 憲司 [編]	2006	学生相談シンポジウム—大学カウンセラーが語る実践と 研究	培風館	—	—
佐治 守夫 近藤 邦夫 [他編]	2007	臨床家 佐治守夫の仕事3—臨床家としての自分をつくる こと:エッセイ・講演編	明石書店	—	—
鶴田 和美	2007	「学生生活サイクル研究」の経緯と課題	名古屋大学学生 相談総合セン ター紀要	7	25-32
都筑 学	2010	学生の成長をどのようにとらえ、どのように支えていくの か—学生の失敗経験に着目して (研究委員会企画シンポ ジウム記録)	青年心理学研究	22	93-97
日本学生相談学 会50周年記念誌 編集委員会[編]	2010	学生相談ハンドブック	学苑社	—	—
都筑 学	2011	今を生きる若者の人間的成長	中央大学出版部	—	—
笠原 嘉	2011	再び「青年期」について	みすず書房	—	—
畠瀬 稔 [他編著]	2012	人間中心の教育—パーソンセンタード・アプローチによ る教育の再生をめざして	コスモスライ ブラリー	—	—
溝上 慎一 及川 恵	2012	学生の学びと成長・支援 (京都大学高等教育研究開発推進セ ンター (編) 『生成する大学教育学』所収)	ナカニシヤ出版	—	119-159
宮下 一博 [他]	2012	大学生の心の成熟と転落を左右する対人関係のもち方— そのメカニズムとコミュニケーションのあり方	あいり出版	—	—
日本人間性心理 学会[編]	2012	人間性心理学ハンドブック	創元社	—	—
河井 亨	2014	大学生の成長理論の検討—Student Development in Collegeを中心に	京都大学高等 教育研究	20	49-61
梶田 叡一	2016	人間教育のために—人間としての成長・成熟 (Human Growth) を目指して	金子書房	—	—

### 3. 成長の基礎研究

成長に関する実証的な基礎研究については、例えば、山本（1991, 1992a, 1992b）は、青年期の不安を「成長不安（人間的成長により positive な意味を持つ不安。人間的成長を促進する働きをもつ不安）」と「抑制不安（人間的成長により negative な意味を持つ不安。人間的成長を抑制する働きをもつ不安）」の二つに分類し、数量的研究を行っている。速水他（1994）は「自己成長力（自ら自分自身を伸ばしていこうとする力）」という概念を提唱し、自己成長力検査を作成し、青少年の自己成長力を数量的に検討している。山影（2010）は精神的成長の契機となった場面と、その場面で体験した感情、そして精神的発達や社会的能力を身につける過程で行った行動などについて分析している。磯野・飛永（2012）は「学生自己成長感（大学教育・大学生活を通して生じる、自分が成長したという感覚）」について定性調査を行っている。

表3に、成長に関する基礎研究の主な文献を示した。成長不安、自己成長力、自己成長志向性、精神的成長、人格的成長などに関する実証的研究、及び成長と他の諸特性（依存性、愛着、感動など）との関連についての実証的研究が掲載されている。

### 4. ストレス関連と成長

人はストレスフルな出来事を経験した後に人間的な成長（自己成長感）がもたらされることがある。このような現象に関する概念はいくつも存在し、例えば、Tedeschi & Calhoun（1996）は PTG（Posttraumatic Growth：心的外傷後成長）という概念を提唱し、Park et al.（1996）は SRG（Stress-Related Growth：ストレスに起因する成長）という概念を提唱し、それぞれ実証的研究が行われている。

我が国では、宅（2004）が自己成長感を「自らの成長に対する実感、ないしは手応え」と捉え、ストレス体験と自己成長感をつなぐ循環モデルを構築し、その後、宅（2005）はストレスに対する意味づけに着目し、ストレスに起因する自己成長感の生じるメカニズムを検討している（両研究の対象は高校生である）。また、羽鳥・小玉（2009）は困難体験に対する肯定的意味づけの視点から従来の研究を整理し、堀田・杉江（2012）は、ストレスフルな体験の意味づけに関する研究の動向を概観している。

心的外傷後成長に関する書籍としては、『外傷後成長に関する研究—ストレス体験をきっかけとした青年の変容』（宅, 2010）、『PTG 心的外傷後成長—トラウマを超えて』（近藤, 2012）、『トラウマ後 成長と回復—心の傷を超えるための 6 つのステップ』（Joseph, 2011 北川訳 2013）、『心的外傷後成長ハンドブック—耐え難い体験が人の心にもたらすもの』（Calhoun & Tedeschi, 2006 宅他訳 2014）、『悲しみから人が成長するとき—PTG = Posttraumatic growth』（宅, 2014）などがある。

ストレス関連（ストレスまたはストレスとかわかる事象・経験・特性等）と成長の関係について、1990 年以降の我が国の大学生を対象とした研究に関する主な文献を表4に示す。心的外傷体験、震災、喪失体験、挫折体験、いじめられた体験、失恋などのストレスとなる体験と成長との関係について論じた文献が掲載されている。

表3 成長の基礎研究に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
岨中 達	1982	受験体験と進路選択 (笠原 嘉・山田 和夫 (編) 『キャンパスの症候群—現代学生の不安と葛藤』 所収)	弘文堂	—	32-53
山本 誠一	1991	青年期における成長不安と抑制不安の相互作用に関する検討—人間の成長性との関係性について	筑波大学心理学研究	13	155-160
山本 誠一	1992a	青年期の成長不安・抑制不安を規定する要因の検討—自我の強さ・自尊感情の観点から	筑波大学心理学研究	14	81-86
山本 誠一	1992b	青年期における不安の二側面に関する実証的検討	心理学研究	63(1)	8-15
速水 敏彦 [他]	1994	自己成長力に関する研究	名古屋大学教育学部紀要・教育心理学	41	9-24
水間 玲子	1994	理想自己と自己評価及び自己形成意識の関連について	教育心理学研究	46(2)	131-141
安達 喜美子 菅宮 正裕	2000	自己像と自尊感情および自己成長意欲との関連について	茨城大学教育学部紀要・教育科学	49	143-156
斎藤 稔正	2001	人間形成における自己超越体験	立命館人間科学研究	1	35-47
水間 玲子	2002	自己形成意識の構造について—これまでの研究のまとめと下位概念間の関係の検討	研究年報 (奈良女子大学)	46	131-146
伊田 勝憲	2003	教員養成課程学生における自律的な学習動機づけ像の検討—自我同一性、達成動機、職業レディネスと課題価値評定との関連から	教育心理学研究	51(4)	367-377
山田 剛史	2004	現代大学生における自己形成とアイデンティティー—日常的活動とその文脈の観点から	教育心理学研究	52(4)	402-413
戸梶 亜紀彦	2004	『感動』体験の効果について—一人が変化するメカニズム	広島大学マネジメント研究	4	27-37
伊藤 正哉 小玉 正博	2005	自分らしくある感覚(本来感)と自尊感情がwell-beingに及ぼす影響の検討	教育心理学研究	53(1)	74-85
中澤 潤 [他]	2006	イメージ画に見られる学生の発達, 成長, 成熟の概念の違い	千葉大学教育学部研究紀要	54	159-165
高井 範子	2008	人間関係観の発達の变化と生き方態度との関連—青年期から老年期を対象として	大阪大学大学院人間科学研究科紀要	34	1-19
竹澤 みどり	2008	自律的な依存の仕方が依存後の自己成長感に及ぼす影響について	筑波大学心理学研究	35	65-72
竹澤 みどり	2009	依存性が自律性に与える影響—自己成長感を媒介として	学園の臨床研究 (富山大学保健管理センター)	8	31-38
松田 君彦 宮下 洋平	2009	仮想的有能感に関する研究 (1)	鹿児島大学教育学部研究紀要 教育科学編	61	103-110
山影 有利佐	2010	青年期の成長契機場面と感情, 成長過程行動に関する検討—愛着スタイルに着目して	青年心理学研究	22	17-32
藤原 あやの 伊藤 裕子	2010	青年期後期から成人期初期における女性の心理的発達—母娘関係が心理的健康に及ぼす影響	カウンセリング研究	43(1)	33-42
経済産業省 [編]	2010	社会人基礎力育成の手引き—日本の将来を託す若者を育てるために—教育の実践現場から	河合塾	—	—
光浪 睦美	2012	認知的方略の違いが対人関係における動機, 目標志向性および対人行動との関係に及ぼす影響	パーソナリティ研究	21(2)	124-137
金子 元久	2012	大学教育と学生の成長	名古屋高等教育研究	12	211-236
磯野 誠 飛永 佳代	2012	大学教育成果としての学生自己成長感	九州共立大学研究紀要	2(2)	25-38
野上 真	2012	大学生の組織的活動における目標対象者の存在, フィードバック提供者の存在, およびコミットメントが個人の成長に及ぼす影響	志學館大学人間関係学部研究紀要	33(1)	1-16
樽木 靖夫 [他]	2013	大学生の自己形成モデルの検討	帝京科学大学紀要	9	15-23
森本 哲介 [他]	2014	「強み(Strengths)」を活用する介入が大学1年生の自己形成意識に与える効果	学校メンタルヘルス	17(1)	39-49
佐久田 祐子 [他]	2015	ポストモダンにおける大学生の成長モデルと時間的展望獲得に関する探索的研究	大阪樟蔭女子大学研究紀要	5	236
西川 一二 [他]	2015	好奇心の個人差と精神的健康および心理的well-beingとの関連	日本健康医学会雑誌	24(1)	40-48
ベネッセ教育総合研究所	2015	大学での学びと成長に関するふりかえり調査	ベネッセ教育総合研究所	—	—
木谷 智子 岡本 祐子	2016	自己概念の多面性と心理的well-beingの関連	青年心理学研究	27(2)	119-127

表4 ストレス関連と成長に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
清水 幹夫 末武 康弘	1994	挫折と成長 (松原 達哉 (編著) 『メンタルヘルスガイド—充実した大学生活をおくるために』 所収)	教育出版	—	107-126
山田 秀樹	1999	スポーツにおける「至高体験」と「どん底体験」の研究	北海道東海大学 紀要・芸術工学部	18	13-16
開 浩一	2006	Posttraumatic Growth (外傷後成長) を促すものは何か—変容過程に視点を置いて	長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要	4(1)	75-84
田口 香代子 古川 真人	2006	外傷体験後のポジティブレガシーに関する研究—日本語版外傷体験後成長尺度(PTGI)作成の試み	昭和女子大学 生活心理研究所紀要	8	45-50
大塚 小百合	2008	喪失体験に対する意味の付与と自己成長感に関する研究—体験の領域による生じ方の差異に注目して	九州大学心理学研究	9	119-131
信野 良太	2008	自己成長感尺度作成の試み	北星学園大学大学院社会福祉学研究科北星学園大学大学院論集	11	125-136
神原 知愛	2009	大学生の挫折経験に関する心理学的考察—挫折観と自己成長感との関連	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要	67	59-66
川島 一晃	2010	困難状況を個人の成長に結びつける対処に関する基礎的研究—Proactive Coping Inventory 日本語版(PCI-J)における信頼性・妥当性の検討	心理臨床学研究	28(2)	184-195
浅野 良輔	2010	人は失恋によって成長するのか—コーピングと心理的離脱が首尾一貫感覚に及ぼす影響	パーソナリティ研究	18(2)	129-139
亀田 秀子 相良 順子	2010	過去のいじめ体験が青年後期においても及ぼす長期的影響—自己成長感を分かつ要因の検討	児童学研究: 聖徳大学児童学研究紀要	12	13-20
武井 優子 [他]	2011	喪失体験からの回復過程における認知と対処行動の変化	カウンセリング研究	44(1)	50-59
亀田 秀子 相良 順子	2011	過去のいじめられた体験の影響と自己成長感をもたらす要因の検討—いじめられた体験から自己成長感に至るプロセスの検討	カウンセリング研究	44(4)	277-287
福岡 欣治	2012	日常ストレス経験に伴う特定の親友との相互作用と心理的健康—過去1ヶ月間の経験に関する検討	川崎医療福祉学会誌	22(1)	53-59
野崎 優樹	2012	自己領域と他者領域の区分に基づいたレジリエンス及びストレス経験からの成長と情動知能の関連	パーソナリティ研究	20(3)	179-192
吉田 琢哉	2012	青年期女子における怒りの感情体験による自己成長感の獲得—社会的共有における聞き手の受容的反応を含めた制御方略の影響	感情心理学研究	20(1)	1-8
高橋 幸子	2013	対人ストレスを身近な他者に相談する過程の検討	カウンセリング研究	46(1)	1-10
堀田 亮 杉江 征	2013	挫折体験の意味づけが自己概念の変容に与える影響	心理学研究	84(4)	408-418
西野 美佐子 いとう たけひこ	2013	東日本震災を体験した大学生の文章のテキストマイニング—基本的自尊感情(共感的自己肯定感)と心的外傷後成長(PTG)に焦点を当てて	東北福祉大学大学院研究論文集総合福祉学研究	10	45-63
野崎 優樹 子安 増生	2013	大学入試に対する認知的評価とストレス対処が情動知能の成長感に及ぼす効果	パーソナリティ研究	21(3)	231-243
鈴木 秀明 [他]	2015	大学生の失敗観が自己成長主導性及び心理的well-beingに与える影響の検討	東京成徳大学臨床心理学研究	15	111-118

## 5. 心理的援助と成長

学生相談による心理的援助は、一般に医学モデルと対比される成長モデル・教育モデル等に立脚している。成長モデルは「適切な援助的関係を提供されることで成長や発達が進められるという仮説に基づく、人間性心理学に特徴的な援助モデル」（岩橋, 2012）と定義され、教育モデルは「学生の悩みや問題を個人の成長、発展上の事柄として見て、それらを援助する」（田中, 2009）と説明されている。今日、このような考え方とは異なる立場のもとで心理的援助が実践されることもある。しかし、成長モデル・教育モデルなどの、成長を重んじた心理的援助を実践した事例研究は数多く存在する。

心理的援助と成長に関する主な文献を表5に示す。学生相談の個別事例、大学生を対象としたカウンセリング・心理療法の事例など、心理的援助の実践について、成長に言及したり、成長という観点から考察を展開している文献が掲載されている。

## 6. グループ・アプローチと成長

グループ・アプローチとは、「個人の心理的治療・教育・成長・個人間のコミュニケーションと対人関係の発展と改善、及び組織の開発と変革等を目的として、グループの機能・過程・ダイナミクス・特性等を用いる各種技法の総称」（野島, 2002）と定義される。グループ・アプローチに関する従来の研究の中では、とりわけエンカウンター・グループ（グループ・エンカウンター）に関する研究が多数を占めている。

坂中は1998年より毎年、我が国の「来談者中心療法」及び「体験過程療法」（「パーソンセンタード・アプローチ」）に関する文献リスト（最新は坂中（2016））を作成し、その中にベーシック・エンカウンター・グループに関する文献が扱われている。また、野島（2000）、武蔵・河村（2003）、鈴木（2009）などが我が国のエンカウンター・グループに関する文献を整理し、エンカウンター・グループが基本的な目的としている「心理的成長」に関する研究を取り上げている。また、押江（2012）は従来の学校臨床（大学を含む）におけるエンカウンター・グループの研究を概観し、その中で、「心理的成長と教育」という観点から心理的成長に関する研究を整理している。さらに、川崎他（2016）は学生相談活動（授業、グループ活動、ピア・サポート、コンサルテーション）の評価方法に関する研究を概観し、その中で、大学生集団を対象として実施されたグループ活動の効果測定に関する研究をまとめている。

エンカウンター・グループと成長の関係について詳述された書籍としては、『エンカウンター・グループと心理的成長』（畠瀬, 1990）、『エンカウンター・グループと個人の心理的成長過程』（平山, 1998）、『構成的グループエンカウンター研究—SGEが個人の成長におよぼす影響』（片野, 2007）などがある。

大学生の成長に焦点を当てたグループ・アプローチに関する研究は数多く見られる。1990年以降の主な文献を表6に示す（研究対象は大学生と他の年代が混在している場合もある）。エンカウンター・グループに関する文献が大半である。



表5 心理的援助と成長に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
細木 照敏 平木 典子[編]	1990	学生カウンセリング	同文書院	—	—
木村 晴子[他]	1992	自己成長のための心理療法的アプローチ	現代のエスプリ	295	51-87
鳴澤 實[編]	1998	こころの発達援助—学生相談の事例から	ほんの森出版	—	—
森田 美弥子	1999	青年期を生きるということ—学生相談と成長促進(池田 豊應・後藤 秀爾(編)『心の臨床・その実践—かかわることの原点から』所収)	ナカニシヤ出版	—	83-98
小林 哲郎 [他編著]	2000	大学生がカウンセリングを求めるとき—こころのキャンパスガイド	ミネルヴァ書房	—	—
佐藤 尚代	2000	大学生の心理的成長をサポートする1セッション・カウンセリング—東大式エゴグラム(TEG)フィードバックの実践	学生相談研究	21(1)	34-42
渡辺 久雄	2000	大学生のメンタルヘルスと心身症	心身医学	40(3)	229-235
齋藤 憲司 道又 紀子	2000	大学院生の適応状況と心理的課題—進学経路の多様性と研究室の諸機能に注目して	学生相談研究	21(1)	16-25
岩田 淳子	2000	学生相談における宗教的問題	学生相談研究	21(2)	123-130
鶴田 和美[編]	2001	学生のための心理相談—大学カウンセラーからのメッセージ	培風館	—	—
渡部 未沙	2001	学生相談における長期休暇の意味—「宿題」事例を通して考察した面接停止期間を補う長期休暇のプラス効果について	学生相談研究	22(3)	239-249
齋藤 憲司	2002	ひとと会うことの専門性—なぜ心理臨床をめざすのか	垣内出版	—	—
鈴木 乙史 [他編著]	2002	女子大生がカウンセリングを求めるとき—こころのキャンパスガイド	ミネルヴァ書房	—	—
齋藤 憲司 道又 紀子	2003	教職員が関与する相談事例への構えと対処—教育目標と心理的成長をめぐる協働に向けて	学生相談研究	24(1)	12-20
松本 剛	2004	「大学生のひきこもり」への人間性心理学的アプローチの有効性	学生相談研究	25(2)	137-147
富樫 美文	2005	大学生の自己成長感を促進する臨床動作法によるストレスマネジメント—臨床動作法における体験に基づく検討	秋田大学臨床心理相談研究	5	19-27
道又 紀子	2006	大学の品格—大学生の心の発達とハラスメント問題	大学と学生	28	35-39
倉光 修	2006	考え方と事例：対人関係の悩みと成長	臨床心理学	6(2)	179-184
独立行政法人日本学生支援機構[編]	2006	大学と学生 502号(平成18年28号)特集 学生相談—こころの成長支援	第一法規	—	—
大仲 重美	2007	学生相談と表現アートセラピー(1)「表現アート」が成長を促した事例	学生相談センター紀要(武庫川女子大学)	17	61-71
森 美保子	2007	学生相談室における森田療法的アプローチ—自己に関する語りの変容と自己の再構成	学生相談研究	28(2)	101-112
佐治 守夫 近藤 邦夫 [他編]	2007	臨床家 佐治守夫の仕事2—治療的：事例編	明石書店	—	—
鶴田 和美[他]	2010	事例から学ぶ学生相談	北大路書房	—	—
日本学生相談学会50周年記念誌編集委員会[編]	2010	学生相談ハンドブック	学苑社	—	—
高石 恭子 岩田 淳子	2012	学生相談と発達障害	学苑社	—	—
桶谷 文哲 西村 優紀美	2013	発達障がいのある大学生への支援—修学支援から就職支援への展開	学園の臨床研究(富山大学保健管理センター)	12	45-52
唐澤 由理	2015	不安障害をもつ男子学生の成長過程—非言語的方法(描画・コラージュ)とコミュニティの人的資源の活用	学生相談研究	36(2)	97-109
杉岡 正典	2015	親面接により学生の自立が促進された面接過程—親機能の回復の意義	学生相談研究	36(1)	1-11
設楽 友崇[他編]	2015	学生相談から切り拓く大学教育実践—学生の主体性を育む	学苑社	—	—
齋藤 憲司	2015	学生相談と連携・協働—教育コミュニティにおける「連働」	学苑社	—	—

表6 グループ・アプローチと成長に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
平山 栄治	1993	エンカウンター グループにおける参加者の個人過程測定尺度の作成とその検討	心理学研究	63(6)	419-424
平山 栄治	1994	エンカウンター・グループにおける高成長者と低成長者の個人過程の比較検討	心理臨床学研究	12(3)	263-273
片野 智治	1994	構成的エンカウンター・グループ参加者の体験的事実の検討	カウンセリング研究	27(1)	27-36
谷地森 久美子	1997	箱庭を使ったグループ・ワークの試み—一般学生に対する自己成長のための心理療法的アプローチの一報告	東洋大学児童相談研究	16	109-120
菅野 信夫	1998	学生相談室活動の一環としての授業 (河合 隼雄・藤原 勝紀(編)『心理臨床の実際 第3巻 学生相談と心理臨床』所収)	金子書房	—	67-75
尾崎 かほる	1998	青年の自己啓発のためのグループ・アプローチ (古屋 健治 (他編著)『青年期カウンセリング入門』所収)	川島書店	—	174-185
田中 梅野	1999	エンカウンター・グループの教育的意義—“大学生の心の成長”を促進する場として	香川大学教養教育研究	4	143-146
松浦 光和 清水 幹夫	1999	Basic Encounter Groupの個人プロセス調査用尺度の作成	カウンセリング研究	32(2)	182-193
小柳 晴生	1999	学生相談の「経験知」—大学における心理臨床	垣内出版	—	—
石田 妙美[他]	2000	女子学生のエンカウンター・グループは参加者にどんな体験として認識されたか	紀要 (東海学園大学)	36	45-57
松浦 光和	2000	ロジャーズ(1970)の考え方に基づいたエンカウンター・グループ効果測定尺度の構成—平山(1992)を参考にして	人間性心理学研究	18(2)	139-151
清水 安夫 児玉 隆治	2001	エンカウンター・グループを応用した授業形態による大学生のメンタルヘルス促進の効果	学校メンタルヘルス	4	65-71
坂中 正義	2001	ベーシック・エンカウンター・グループにおけるC.R.Rogersの3条件の測定—関係認知の視点から	心理臨床学研究	19(5)	466-476
山本 銀次	2001	エンカウンターによる“心の教育”—ふれあいのエクササイズを創る	東海大学出版会	—	—
山本 眞利子	2002	発達心理療法的観点によるエンカウンター・グループの発展過程	学生相談研究	23(2)	156-165
伊藤 義美	2002	自発参加の学生エンカウンター・グループの実証的検討 (伊藤義美 (編著)『ヒューマニスティック・グループ・アプローチ』所収)	ナカニシヤ出版	—	153-162
野島 一彦	2002	グループ・アプローチと集団療法 (岡堂 哲雄 (監)『心理学カウンセリング PDAハンドブック (現代のエスプリ別冊)』所収)	至文堂	—	146-156
松浦 光和[他]	2005	ベーシック・エンカウンター・グループの効果を測定する尺度の作成—3名のファシリテーターの経験に基づいて	仙台白百合女子大学紀要	9	39-52
松浦 光和	2005	エンカウンター・グループにおける心理的成長と個人過程の関係	人間科学 (琉球大学法文学部)	16	21-45
中村 家子	2006	「ティーアワー」について—居場所と仲間を育むグループ活動	大学と学生	502	40-45
足立 明久	2007	グループ・アプローチの必須要件から見たエンカウンター・グループ研究の課題	龍谷大学論集	469	48-60
水野 邦夫[他]	2008	大学新入生の大学適応を促進する授業プログラムの検討	聖泉論叢	15	125-140
松浦 光和	2012	Basic Encounter Group 経験の効果についての実証的な研究	宮城学院女子大学研究論文集	114	1-7
水野 邦夫[他]	2012	合宿・自発参加型による集中的グループ体験が大学生の自己概念に及ぼす影響—構成的グループ・エンカウンターによる検討	心理臨床科学	2(1)	15-29
水野 邦夫	2013	構成的グループ・エンカウンターにおける体験の測定—SGE体験評価尺度作成の試み	帝塚山大学心理学部紀要	2	41-56
水野 邦夫	2014	構成的グループ・エンカウンターにおける感情体験が人間的成長に及ぼす影響—継続・研修型の問題点に対する改善のための提言を含めて	帝塚山大学心理学部紀要	3	57-66
鈴木 研司 平山 栄治	2014	エンカウンター・グループにおける沈黙とグループ・プロセスについて	心理臨床学研究	32(4)	472-482
鈴木 研司 平山 栄治	2015	エンカウンター・グループにおいて心理的成長がもたらされるメカニズムについて—高成長者と低成長者の個人過程の比較から	心理臨床学研究	33(5)	462-472
水野 邦夫	2015	構成的グループ・エンカウンターのプロセスに関する一研究—自由記述データの計量テキスト分析による検討	帝塚山大学心理学部紀要	4	57-65
水野 邦夫	2015	授業への構成型グループ・アプローチの導入にみる逸楽行動の特徴について—構成的グループ・エンカウンターの場合	人間関係研究 (南山大学)	14	66-78
水野 邦夫	2016	単発・研修型による構成的グループ・エンカウンターのプロセスに関する研究—感情の変化と心理的成長感をもとに	帝塚山大学心理学部紀要	5	11-18

## 7. ピア・サポートと成長

ピア・サポート（仲間による支援）は、「ピアという関係性を生み出しうる共通項を認識し、平等性と相互性に根ざした人間関係を通じて行われる自発的で非専門的な支援」（内野，2003）を意味する。西山・山本（2002）と大石他（2007）はピア・サポートに関する文献レビューを行っている。川崎他（2016）はピア・サポート活動の効果測定に関する研究を概観している。

大石他（2007）は各大学のピア・サポート活動に関する報告から、「ピアサポート活動が、学生同士が積極的に助け合う風土をつくり、ピアサポーター自身にとっても、コミュニケーションスキルの向上をもたらし、心理的発達や人格的成長を促す効果を示している」と指摘している。

大学生のピア・サポートに関する文献の中で、成長に言及している主な文献を表7に示す。それを見てわかるように、ピア・サポーターの成長を報告した研究が大半を占めている。

## 8. キャリア関連と成長

大学生の就職活動について、高橋・岡田（2014）は先行研究から「就職活動を経験した学生には、能力の向上や態度の好転、精神的成長の実感などの肯定的な変化が見られ、就職活動は学生の成長を促進する好機と捉えることもできる」と述べている。

また、2011年の中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、キャリア教育について、「将来、社会人・職業人として自立していくために発達させるべき能力や態度があるという前提にたって、各学校段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動を通して達成させることを目指すものである。このような視点に立って教育活動を展開することにより、学校教育が目指す全人的成長・発達を促すことができる」と明記されている。すなわち、就職活動やキャリア教育は大学生の成長を促進する可能性を持っていると考えられる。

大学生のキャリア関連と成長に関する主な文献を表8に示す。就職活動と成長に関する文献、またはキャリア教育と成長に関する文献が多数を占めている。

## 9. 大学教育・大学生活と成長

文部省高等教育局（2000）の報告書「大学における学生生活の充実方策について—学生の立場に立った大学づくりを目指して—」では、「教員自身がまず、正課教育はもちろんのこと、正課外教育も含めた大学生活全般の中で、学生の人間的な成長を図り、自立を促すため適切な指導を行っていくことが教員の基本的責任であることを明確に認識する必要がある」と指摘されている。また、山田（2012）は、「2008年3月の中央教育審議会答申『審議のまとめ』において言及されているように、学士課程教育の構築に向けて各大学が自らの教育理念と学生の成長を実現する学習の場として学士課程を充実させることが強く求められるようになってきた」と指摘している。実際に、

表7 ピア・サポートと成長に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
豊嶋 秋彦 [他]	2002	非専門家学生における適応支援者としての社会化過程— 不登校生徒の長期支援学生に対するPAC分析	弘前大学保健 管理概要	23	15-35
内野 倬司 [他]	2003	広島大学ピア・サポート・ルームの初年度の活動に関す る考察	学生相談研究	23(3)	233-242
内野 倬司	2003	学生ボランティアによる学生相談活動の試み—広島大学 ピア・サポート活動について	大学と学生	460	40-46
中出 佳操	2003	大学生によるピア・サポート活動とその意義	人間福祉研究 (北翔大学)	6	85-99
大石 由起子 [他]	2007	ピアサポート・ピアカウンセリングにおける文献展望	山口県立大学 社会福祉学部 紀要	13	107-121
伊東 孝郎	2007	白鷗大学におけるピア・サポート活動—開始2年間の考察	論集(白鷗大学)	3(2)	41-66
杉村 和美 [他]	2007	ペア相談と学生の主体性を取り入れた大学でのピア・サ ポート活動—名古屋大学における実践を通して	青年心理学研究	18	51-62
大石 由起子 [他]	2010	大学における新入生支援としてのピアサポート活動—立 ち上げの2年間をめぐる考察	山口県立大学 学術情報	3	29-44
岡田 裕美子	2010	大学新入生のピア・サポート訓練を通じた気づきについ ての考察—各回ごとの体験に着目して	福山大学ここ ろの健康相談 室紀要	4	25-33
土屋 貴之	2010	ピア・サポートの可能性	大学と学生	561	29-35
仲 律子	2013	大学におけるピア・サポート活動について—鈴鹿国際大 学での発達障害や精神障害の学生への支援を中心として	鈴鹿国際大学 紀要 Campana	19	147-162
鳥越 ゆい子 [他]	2013	K女子大学のピア・サポート活動における学生の成長— ピア・サポーターの成長に注目して	帝京科学大学 紀要	9	45-56
泉谷 道子 山田 剛史	2013	体系的なピア・サポート活動による学生の学びと成長	大学教育実践 ジャーナル (愛媛大学教 育・学生支援 機構)	11	61-67
橋場 論 [他]	2014	学修支援活動に携わる学生スタッフの変容プロセスに関 する探索的研究	名古屋高等教 育研究	14	279-298
北澤 泰子 [他]	2014	学生寮におけるピアサポーターの成長に関する一考察— お茶大SCCのレジデント・アシスタントを事例として	高等教育と学 生支援：お茶 の水女子大学 紀要	5	85-94
小林 佐知子 [他]	2015	学生相談を中心としたピアサポート活動の導入と評価に ついて—ピアサポーターの心理的成長を中心に	大垣女子短期 大学紀要	56	113-118
沖 裕貴	2016	立命館大学のピア・サポート・プログラム—その特徴と 課題、今後の展望	立命館高等教 育研究	16	1-17
秦 喜美恵 [他]	2016	学生ピアリーダーの成長プロセスとその要因分析に関す る質的研究—立命館アジア太平洋大学のティーチング・ アシスタントへのインタビューをとおして	立命館高等教 育研究	16	65-82

表8 キャリア関連と成長に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
浦上 昌則	1996	就職活動を通しての自己成長—女子短大生の場合	教育心理学研究	44(4)	400-409
安達 智子	1998	大学生の就業動機測定を試み	実験社会心理学研究	38(2)	172-182
安住 伸子	2006	学生相談とキャリア教育—こころの成長を進路決定に生かす	大学と学生	502	21-28
高橋 桂子 石井 藍子	2008	大学生生活・就職活動が自己効力感に与える影響	教育実践総合研究 (新潟大学教育学部附属教育実践総合センター)	7	47-55
黒沢 幸子 [他]	2008	学校教育支援ボランティアを体験した学生の変化・成長—その様相とキャリア教育の視点からの考察	目白大学心理学研究	4	11-23
高橋 浩 楡木 満生	2008	女子大学生の成長体験の語りがキャリア発達に及ぼす影響	産業カウンセリング研究	11(1)	1-12
泉水 清志	2008	女子短大生における進路選択と進路指導—自己成長力と進路決定自己効力からの検討	育英短期大学研究紀要	25	33-43
羽石 寛寿 [他]	2009	大学におけるキャリア支援教育の研究(第2報)	経営情報研究: 摂南大学経営情報学部論集	16(2)	45-62
宮下 一博	2010	大学生のキャリア発達—未来に向かって歩む	ナカニシヤ出版	—	—
ハラデレック 裕子[他]	2011	新たなキャリア教育科目の効果(1)「自己開拓」の概要と学生の成長	中部大学教育研究	11	43-47
藤里 紘子 小玉 正博	2011	首尾一貫感覚が就職活動に伴うストレスおよび成長感に及ぼす影響	教育心理学研究	59(3)	295-305
鶴木 恵子 [他]	2012	リーダーズキャンプ参加経験が学生の自己成長に及ぼす影響—定量的分析と定性的分析による検討	社会情報論叢	15	185-204
鶴木 恵子 [他]	2013	リーダーズキャンプ参加経験が学生の自己成長に及ぼす影響2—縦断調査による分析	社会情報論叢	16	155-173
鶴田 美保子	2013	女子大学生の就職活動におけるプロアクティブパーソナリティの役割	金城学院大学大学院人間生活学研究科論集	13	15-27
高橋 南海子 岡田 昌毅	2013	大学生の就職活動による自己成長感の探索的検討	産業・組織心理学研究	26(2)	121-138
高橋 南海子 岡田 昌毅	2014	大学生の就職活動による自己成長感が入社初期の対処態度及び適応感に及ぼす影響	筑波大学心理学研究	47	25-36
鈴木 範子 [他]	2014	情報系大学生に対する自発的成長を促すキャリア教育のためのワークショップデザインの検討	情報教育シンポジウム2014 論文集	2	65-72
杉山 久美子	2015	大学生の就職活動における内面的成長に関する研究	臨床教育学研究 (武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科)	21	93-110
中嶋 みどり	2015	本学部学生の就職活動によるソーシャルスキルの向上と自己成長感との関連	広島国際大学心理学部紀要	3	61-69
野上 真	2015	キャリア目標意識, コミットメント, 助言者の存在が学生の短期インターンシップを通じての成長実感にもたらす影響	志學館大学人間関係学部研究紀要	36	15-26
寿山 泰二 [他]	2016	大学生のためのキャリアガイドブック(Ver.2)	北大路書房	—	—

近年、大学では学生の成長を重視する機運が高まる傾向にあり、このような状況下において、学生の成長に関する研究量が増加していると考えられる。

大学教育・大学生活と成長に関する文献を表9に示す。なお、本カテゴリーに属する文献であっても、内容的に他のカテゴリーに、より適合すると考えられた文献については、他のカテゴリーの表に掲載されている。表9には、主に正課教育及び正課外教育（課外活動）が学生に与える教育的効果に焦点を当てながら、学生の成長について言及、ないしは論じている文献が掲載されている。

## 10. 教員養成と成長

内田（2015）は、「教職に就く者は日頃より自身の資質を高める努力を怠たらず自ら望んで研修に取り組む存在であり、児童生徒とともに成長することを期待されている」と述べている。

中央教育審議会の答申によると、2005年の「新しい時代の義務教育を創造する（答申）」では、優れた教師の条件の一つとして、「総合的な人間力」を挙げ、その説明として、「教師には、子どもたちの人格形成に関わる者として、豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質を備えていることが求められる。また、教師は、他の教師や事務職員、栄養職員など、教職員全体と同僚として協力していくことが大切である」と記述されている。

また、2012年の「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」においても、教員に求められる資質能力の一つとして、「総合的な人間力（豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力）」が挙げられている。

さらに、2015年の「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について一学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて（答申）」では、総合的な人間力などについて、「教員として不易の資質能力は引き続き教員に求められる」と明記されている。

上記を踏まえると、教員養成に従事する大学にとって、教員を目指す学生の成長を促進し、総合的な人間力を高めることは重要な課題であり、このような認識のもとで、今日、教員養成と成長に関する研究が行われていると推察される。

教員養成と成長に関する文献を表10に示す。特に、教育実習の経験が学生に与える影響や、正課外教育が教員を志望する学生に与える影響について考察した文献が比較的多い。なお、職業上の専門性、すなわち教職に関する専門知識と技能における成長を中心に論じている文献であっても、広く人間的な成長とかかわる側面が含まれていると考えられた場合は表に掲載されている。

表9 大学教育・大学生生活と成長に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
下 孝一	1995	成長感の高い授業を求めて—成長感に関わる処遇上の要点 (注:本論文はシリーズ化され、(5)まで公開されている)	湘北紀要	16	13-23
吉村 良一	1996	カリキュラム改革と学生の成長	大学と教育	17	37-50
田中 共子	1996	日本人チューター学生の異文化接触体験—ソーシャル・サポートとソーシャル・スキルおよび自己の成長を中心に	広島大学留学生センター紀要	6	85-101
斧 優子	1998	夏季海外留学における態度と人間的成長への影響	岐阜聖徳学園大学紀要・教育学部外国語学部	36	143-155
文部省高等教育局	2000	大学における学生生活の充実方策について(報告)—学生の立場に立った大学づくりを目指して	—	—	—
森田 裕司 岡本 貞雄	2006	新入生対象の講義「キャンパスライフ実践論」の試み—学生生活全体のサポート	学生相談研究	26(3)	185-197
広崎 純子[他]	2006	NPO活動におけるボランティアの学びと成長—高校生の進路選択支援活動に携わる学生を事例に	お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要	3	113-122
野崎 耕一 後藤 俊夫	2006	大学生の成長の考察	静岡産業大学情報学部研究紀要	8	231-395
築山 泰典[他]	2008	大学キャンプ実習が「社会人基礎力」に及ぼす有効性の検討	福岡大学スポーツ科学研究	39(1)	13-26
藤井 文武 山本 節夫	2008	受講生の目的意識喚起と起業家精神育成を狙う授業科目の企画と実施	大学教育(山口大学大学教育機構)	5	35-45
眞榮城 和美 西 一夫	2008	学習チューター活動による大学生の自己成長過程と学生支援体制に関する検討	清泉女学院大学人間学部研究紀要	5	3-17
溝上 慎一	2009	「大学生活の過ごし方」から見た学生の学びと成長の検討—正課・正課外のバランスのとれた活動が高い成長を示す	京都大学高等教育研究	15	107-118
山田 礼子	2009	学生の情緒的側面の充実と教育成果—CSSとJCSS結果分析から	大学論集(広島大学)	40	181-198
沼野 みえ子	2009	学校における学生の自己成長支援の可能性—特別ゼミでの実践報告	新潟青陵大学短期大学部研究報告	39	153-165
山川 裕樹	2009	学生相談室発信授業におけるイメージワークの試み—個性性に根ざした授業実践	学生相談研究	29(3)	228-239
原田 登美	2010	日本語学習者と英語学習者の留学動機—留学は第二言語学習と自己形成にどう影響するのか	言語と文化	14	179-201
伊藤 和也[他]	2010	学生の心理的成長を促すための支援—課外活動におけるハラスメント予防研修を通して	帝京大学宇都宮キャンパス研究年報 人文編	16	63-96
松井 かおり	2010	学生の学びあいが育む成長エネルギー—学習者の自立を支援する学生支援の構築にむけて	大学と学生	77	41-47
安永 悟	2010	学生の変化・成長を促す初年次教育を求めて	大学と学生	80	6-13
中村 博幸	2010	“学生のマナー”を教育の目標として考える—学生が自立・成長する為の学習サポート	大学と学生	86	19-26
北村 智 岡本 絵莉	2010	工学系大学院の研究室教育における学生の満足度および成長の自己評価と研究業績の関係	日本教育工学会論文誌	34(2)	95-103
河合塾[編]	2010	初年次教育でなぜ学生が成長するのか—全国大学調査からみえてきたこと	東信堂	—	—
三田 育雄	2011	地域をフィールドにした学生の「成長」支援	大学と学生	564	30-35
辻 幸恵	2011	学生の成長を促すゼミの試み	教育研究所紀要(追手門学院大学)	29	17-25
岡田 有司[他]	2011	大学生における学習スタイルの違いと学習成果	立命館高等教育研究	11	167-182
高石 恭子	2011	学生の「個性化」を支える心と体の成長支援—複数キャンパスと少人数高度専門教育時代における学生の主体的人間力を高めるためのサポートネットワーク創造の試み	大学と学生	564	85-99
伊藤 忠弘	2011	ボランティア活動の動機の検討	研究年報(学習院大学)	58	35-55
河井 亨	2012	学生の学習と成長に対する授業外実践コミュニティへの参加とラーニング・ブリッジングの役割	日本教育工学会論文誌	35(4)	297-308
山田 礼子	2012	学生の成長を支援するプログラム(山田 礼子『学びの質保証戦略』所収)	玉川大学出版部	—	61-103

辻 多聞	2012	PBLによる大学生の成長とそれに伴う大学教育の在り方—山口大学と同志社大学でのアンケート結果をもとに	大学教育(山口大学大学教育機構)	9	16-25
山田 礼子	2012	学士課程教育の質保証へむけて—学生調査と初年次教育からみえてきたもの	東信堂	—	—
佐藤 嘉倫 松田 幸恵	2012	青年の自己成長と集団体験の関連—アイデンティティと自己意識を中心に	山口短期大学研究紀要	32	25-29
平井 博志[他]	2012	大学期における課外活動の種類とライフスキルの関係	大学体育学	9(1)	117-125
磯野 誠 飛永 佳代	2012	大学教育成果としての学生自己成長感	九州共立大学研究紀要	2(2)	25-38
茶屋道 拓哉 筒井 睦	2012	東日本大震災における学生ボランティア活動の教育的意義	九州看護福祉大学紀要	12(1)	25-37
金子 元久	2012	大学教育と学生の成長	名古屋高等教育研究	12	211-236
谷口 進一[他]	2012	KIT型“学びの成長”の検証モデル構築-I—学生のジェネリックスキルに対する意識調査	KIT progress: 工学教育研究(金沢工業大学)	19	211-220
谷口 進一[他]	2013	KIT型“学びの成長”の検証モデル構築-II—ジェネリックスキルに関する意識の学年における変化の分析	KIT progress: 工学教育研究(金沢工業大学)	20	71-78
大島 勇人[他]	2013	学生支援に求められる条件—学生支援GPの実践と新しい学びのかたち	東信堂	—	—
児玉 恵美	2013	卒業論文作成における教育的意義について—学生の自尊感情と教員による期待	応用障害心理学研究	12	13-26
金子 元久	2013	大学教育の再構築—学生を成長させる大学へ	玉川大学出版部	—	—
中西 美和	2014	青年期女性の成長を促進する要因の検討	大阪女学院短期大学紀要	43	37-49
若生 正和	2014	短期留学生の留学動機づけと進路選択に関するインタビュー調査	大阪教育大学紀要 第IV部門 教育学	62(2)	181-191
高橋 広行	2014	社会に役立つ学生の成長のために—実学(社会連携企画)を通じたゼミ活動	流通科学大学教学支援センター紀要	1	13-36
武田 るい子	2014	学生の成長を見る視点の探索—地域・連携によるプロジェクト型学習の事例	清泉女学院短期大学研究紀要	33	44-54
入江 詩子	2014	日中韓の大学生による共同体験学習の効果と課題について—大邱大学研修における日本人学生の成長を中心として	長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要	12(1)	1-8
山下 仁司	2014	教育成果の測定のあり方をどのように考えるか—『大学生基礎力調査』のデータ実例で見る教育改善の方法	情報知識学会誌	24(4)	404-413
宮島 良子	2015	日本法SENDプログラムを通して見る、学生の成長	名古屋大学国際教育交流センター紀要	2	49-57
石田 悠[他]	2015	ラーニングコモンズにおける学生スタッフ活動を通しての学生の成長	高等教育フォーラム	5	189-195
中川 正	2015	学生支援を組み込んだカリキュラムの構築—三重大学における教育質保証の試み	名古屋高等教育研究	15	23-38
中嶋 友樹[他]	2015	学生の成長要因と人材育成目標に基づくアセスメント指標の構築—立命館大学の課外自主活動を対象として	大学行政研究	10	67-81
音 好宏[他]	2015	大学時報364号(2015年9月号)特集 特徴ある正課外教育で学生を教育する	一般社団法人日本私立大学連盟	—	—
河井 亨	2015	正課外教育における学生の学びと成長	大学時報	364	34-41
中里 陽子[他]	2015	授業時間内の学生支援活動による学生の成長メカニズムに関する予備的研究	アドミニストレーション	21(2)	91-110
猪池 雅憲 金杉 高雄	2015	グローバル研修の活性化に向けて—学士課程教育と倫理観の養成	太成学院大学紀要	17	11-19
吉川 博行	2016	正課外活動団体加入学生の学修に関する考察	大手前大学CELL教育論集	6	19-24
野上 真 志賀 玲子	2016	グループ・ディスカッションにおけるスチューデント・アシスタントの導入と学生の成長実感の関係	志學館大学人間関係学部研究紀要	37	1-14
山崎 芙美子	2016	実践型教育プログラムによる学生の成長を可視化するための試み	大学教育と情報	1	14-17



表10 教員養成と成長に関する文献例

著者名	発行年	題目	雑誌名/発行所	巻(号)	頁
豊嶋 秋彦 [他]	2002	非専門家学生における適応支援者としての社会化過程— 不登校生徒の長期支援学生に対するPAC分析	弘前大学保健 管理概要	23	15-35
羽賀 敏雄 吉崎 聡子	2004	教育実習を補完する体験的諸活動を経験した学生の成長	弘前大学教育 学部紀要	92	173-180
中川 良雄	2006	自己成長のための探求的課題—日本語教員養成の新たな 可能性	研究論叢(京都 外国語大学)	68	199-212
上崎 巖	2007	教育実習報告書に記されている学生の心情と経験並びに それらについての考察—学生の成長して行く姿が見える	北里大学一般 教育紀要	12	10-30
岡崎 純子 [他]	2008	大学と地域の連携活動による森林環境教育での教員養成 系大学学生の教師としての成長の場の構築	大阪教育大学紀 要 第5部門 教 科教育	57(1)	85-91
高橋 靖子	2009	教職員連携による教育実習生への心理的援助—学部兼ス クールカウンセラーとしての活動より	学生相談研究	29(3)	207-217
姫野 完治	2010	段階的教育実習による教職志望学生の成長観の変容	秋田大学教育文 化学部教育実践 研究紀要	32	153-165
池田 浩明 [他]	2011	特別支援学校の教育実習における学生の意識について(1) —実習生の期待・不安・成長に関するアンケート調査から	藤女子大学 紀要・第Ⅱ部	48	125-131
姫野 完治	2012	教職志望学生の成長観の変容を支援するポートフォリオ およびカルテ・システムの開発と試行	教師学研究： 日本教師学学 会誌	11	1-11
鈴木 慶子	2012	教育実習における学生の「納得」と成長を促すメンタリ ング(山地 弘起・橋本 健夫(編)『学生の納得感を高 める大学授業』所収)	ナカニシヤ出版	—	149-166
土井 進 市川 祥介	2013	麻績村「森の学園」と「信大YOU遊未来」の協働による 子どもと学生の成長	地域ブランド 研究	8	27-33
服部 直幸 土井 進	2013	学生主体の地域貢献活動「信大YOU遊未来」による学生 の成長	教育実践研究： 信州大学教育学 部附属教育実践 総合センター紀 要	14	91-100
時任 隼平 久保田 賢一	2013	卒業生を対象とした正課外活動の成果とその要因に関す る研究	日本教育工学 会論文誌	36(4)	393-405
阿部 芳吉 [他]	2013	教育復興支援センター活動報告：学習支援ボランティア 活動を通じた学生の育成(注：本報告は継続的に報告さ れ、2014, 2015, 2016にも公刊されている)	教育復興支援セ ンター紀要(宮 城教育大学)	1	33-43
福島 裕敏	2014	教師教育の「高度化」と学生の成長過程—学生の在学中 の成長過程	日本教師教育 学会年報	23	54-63
内田 雄三	2015	教育実習における学生の成長—中学校保健体育科の授業 実践を通して	白鷗大学教育 学部論集	9(1)	179-199
赤沢 真世 [他]	2015	正課を補完する課外自主活動を通じた学生の学びと成長 感—教職を目指す学生の沖縄研修	立命館教職教 育研究	2	49-59
本間 利夫	2015	学生・教員が共に成長する場を求めて—「学校ボラン ティア」の展開に関する中間報告	神奈川大学心 理・教育研究 論集	38	107-114
伊井 義人 松原 謙二	2016	へき地小規模中学校における学習支援活動を通じた教職 課程履修学生の成長と変化	藤女子大学 QOL研究所紀 要	11(1)	93-101

### Ⅲ おわりに

本稿では大学生の人間的な成長に関する文献について、10のカテゴリーを設け、リストを提示した。従来の文献を概観すると、文献の数自体はかなりの数に上る。その中には学生相談や大学教育に資する優れた研究も数多く含まれている。しかし、その一方で、実証的・数量的にアプローチした研究や、現代の大学生の心理に適合した支援法を用いた実践的な研究は依然として不十分であることがわかる。

今後、学生相談及び大学教育の意義があらためて問われる中で、大学生の人間的な成長の概念を明確にした上で、その構造、要因、メカニズム等を実証的に解明する研究の蓄積が期待される。また、学生相談や大学教育の実際という面では、川上（2013）が指摘するように、「彼らの本質的な支援や成長につながることは何か？」という問いを持ち続けながら、学生相談や大学教育の実践的な研究を創出し、その成果を学生たちに還元することが求められる。

#### 文 献 （※表に掲載していない引用文献のみ記載）

- Calhoun, L. G., & Tedeschi, R. G. (Eds.). (2006). *The Handbook of Posttraumatic Growth: Research and Practice*. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates Publishers. (カルフーン, L. G., テデスキ, R. G. 宅 香菜子・清水 研(監訳) (2014). 心的外傷後成長ハンドブック——耐え難い体験が人の心にもたらすもの—— 医学書院)
- 中央教育審議会 (2005). 新しい時代の義務教育を創造する(答申) 文部科学省 Retrieved from [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1347059.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1347059.htm) (2016年9月30日)
- 中央教育審議会 (2011). 中央教育審議会答申 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申) 文部科学省 Retrieved from [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf) (2016年9月30日)
- 中央教育審議会 (2012). 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申) 文部科学省 Retrieved from [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/08/30/1325094_1.pdf) (2016年9月30日)
- 中央教育審議会 (2015). これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について——学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて(答申) 文部科学省 Retrieved from [http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/afieldfile/2016/01/13/1365896\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf) (2016年9月30日)
- 畠瀬 稔 (1990). エンカウンター・グループと心理的成長 創元社
- 羽鳥 健司・小玉 正博 (2009). 我々は困難な状況でどう成長するのか——困難体験に対する肯定的意味づけの視点から—— ヒューマン・ケア研究, 10(2), 101-113.
- 平山 栄治 (1998). エンカウンター・グループと個人の心理的成長過程 風間書房
- 堀田 亮・杉江 征 (2012). ストレスフルな体験の意味づけに関連する研究の動向 筑波大学心理学研究, 44, 113-122.

- 岩橋 宗哉 (2012). 成長モデル 日本人間性心理学会 (編) 人間性心理学ハンドブック (p.346) 創元社
- Joseph, S. (2011). *What doesn't kill us: The new psychology of posttraumatic growth*. New York: Basic Books. (ジョセフ, S. 北川知子(訳)(2013). トラウマ後成長と回復——心の傷を超えるための6つのステップ—— 筑摩選書)
- 片野 智治 (2007). 構成的グループエンカウンター研究——SGEが個人の成長におよぼす影響—— 図書文化社
- 川上 華代 (2013). 現代学生の特徴と学生相談についての一考察——問題や症状が維持され、変わらない学生の姿から見えてくるもの—— 和光大学現代人間学部紀要, 6, 141-153.
- 川崎 隆・古川 眞由美・田中 崇恵・江上 奈美子・慶野 遥香・高野 明 (2016). 学生相談活動における評価方法に関する研究の概観——授業、グループ活動、ピア・サポート、コンサルテーションに着目して—— 学生相談研究, 36, 197-208.
- 近藤 卓 (編著) (2012). PTG 心的外傷後成長——トラウマを超えて—— 金子書房
- 武蔵 由佳・河村 茂雄 (2003). 日本におけるエンカウンター・グループ研究とその課題 カウンセリング研究, 36, 282-292.
- 西山 久子・山本 力 (2002). 実践的ピアサポートおよび仲間支援活動の背景と動向——ピアサポート/仲間支援活動の起源から現在まで—— 岡山大学教育実践総合センター紀要, 2, 81-93.
- 野島 一彦 (2000). 日本におけるエンカウンター・グループの実践と研究の展開——1970-1999—— 九州大学心理学研究, 1, 11-19.
- 押江 隆 (2012). 日本の学校臨床におけるエンカウンター・グループの文献的展望 教育実践総合センター研究紀要(山口大学教育学部附属教育実践総合センター), 34, 97-106.
- Park, C. L., Cohen, L. H., & Murch, R. L. (1996). Assessment and prediction of stress-related growth. *Journal of Personality*, 64, 71-105.
- 坂中 正義 (2016). 日本におけるパーソンセンタード・アプローチに関する文献リスト(2015) 人間関係研究(南山大学), 15, 105-134.
- 鈴木 潤也 (2009). エンカウンター・グループの日本における導入の歴史と今後の発展においての課題 青山心理学研究, 9, 47-59.
- 宅 香菜子 (2004). 高校生における「ストレス体験と自己成長感をつなぐ循環モデル」の構築——自我の発達プロセスのさらなる理解にむけて—— 心理臨床学研究, 22, 181-186.
- 宅 香菜子 (2005). ストレスに起因する自己成長感が生じるメカニズムの検討——ストレスに対する意味の付与に着目して—— 心理臨床学研究, 23, 161-172.
- 宅 香菜子 (2010). 外傷後成長に関する研究——ストレス体験をきっかけとした青年の変容—— 風間書房
- 宅 香菜子 (2014). 悲しみから人が成長するとき——PTG = Posttraumatic growth—— 風間書房
- Tedeschi, R. G., & Calhoun, L. G. (1996). The posttraumatic growth inventory: Measuring the positive legacy of trauma. *Journal of Traumatic Stress*, 9, 455-471.